



俳人協会北海道支部会報

北 こぶし

◇発行人
俳人協会北海道支部

◇発行所
俳人協会北海道支部

〒005-0841
札幌市南区石山1条2丁目4-18

大郷石秋

事務局

辰巳 奈優美 方

◇令和三年第三十七回定時総会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年度に引き続き一堂に会しての開催を見送り、書面表決による総会としました。

◇五月上旬、会員二四三名の皆様には総会資料を送付しましたところ、一九〇名の方から返信があり、全議案につき全員の承認を頂きました。ここにすべての議案が可決されたことをご報告申し上げます。ご協力誠にありがとうございました。

◇さて、新型コロナウイルスは変異株も出現して未だに収束が見通せない状況のため、令和四年の新春句会・新年交礼会は中止することに決定致しました。総会は現在検討中です。

◇なお、第十四回俳句大会は、本部創立六十周年記念北海道大

会との併称にて行います。つきましては、道内選者に加え、本部より樫末知子氏、角谷昌子氏、臺目良雨氏、福永法弘氏の四名の方に選者として加わって頂くことになりました。どうぞ奮ってご応募ください。詳しくは本号をご覧ください。

(陽 美保子記)

一人・少人数で楽しめる 吟行スポット

◇旧島松駅通所は、明治六年に道内初の車馬道の開通に伴って宿泊と運送の便をはかるために設置されたもので、当時は函館・札幌間を馬で四泊五日かかったそうです。

◇現在の建物は明治十四年の平面図を基に昭和五十九年から保存修理工事を行ったもの。板の間の大きな囲炉裏は、旅人の憩いの場であったことでしょう。

◇駅通所の同じ場所に蓮池と水田があります。仙台藩士に仕えた中山久蔵が明治六年に、赤毛米による水稻栽培に成功。

◇当時は風呂の湯を汲んで苗代を作り、川から引いた水を温め水田に流すなど、今では考えら

れない苦労があったようです。現在も島松の小学生が赤毛米を学校田で栽培しています。

◇また、「少年よ、大志を抱け」のクラーク博士の言葉は、見送りにきた学生と別れる時に残したもので、この記念碑がひっそりと残されています。

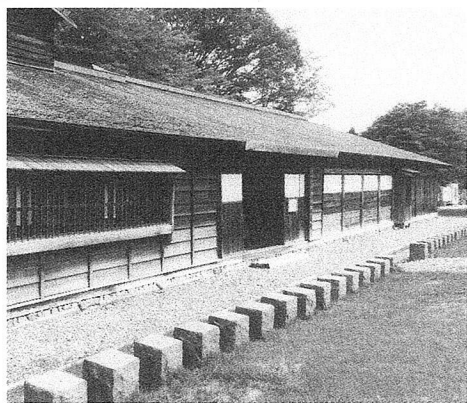
◇新緑から始まり夏の蓮池、特に秋の楓・桂紅葉に彩られる駅通所は見応えがあります。

◇札幌からも近いので、吟行地としては是非お勧めしたいです。

所在地 北広島島松一ー一
開館日 四月二十八日から十一月三日

入場料 二百円 駐車場有

(中森千尋)



◇農試公園は、札幌市西区にある農林水産省北海道農業試験場跡地につくられた一年を通して利用できる運動公園です。

J R 琴似駅から徒歩十五分地下鉄東西線琴似駅から徒歩二十五分で駐車場もあり、便利な所にあります。

シンボル施設である「ツインキャップ」では自然光が降り注ぐ屋内グラウンドとなっており、季節や天候に関係なくスポーツを楽しむことができます。

野球場、テニスコート、多目的広場、トンカチ広場、遊戯広場、ゲートボールコートなど市民の憩いの場となっています。琴似発寒川河畔にあり、川に沿ってポプラが植えられています。

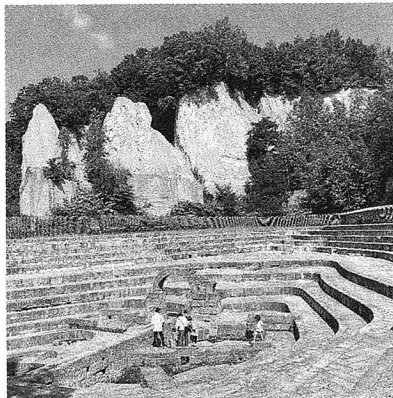
ここは私の散歩コースの一つで川沿いを含む公園内を一時間くらいかけて散策します。ラジオ体操に参加したり、野球の試合を観戦したり、琴似発寒川の鴨の様子を観察したりして、楽しんでいきます。高層マンション越しに手稲山を眺めることもできます。

桜の名所で、紅葉も見事であり、冬の多目的広場(庄雪広場)ではスキーや橇すべりで子ども

たちが噪いでいます。

四季を通して楽しめる農試公園へ、是非みなさんもお立ち寄り下さい。
(小林道彦)

◇私の住む札幌市南区石山の「石山緑地」を紹介したい。すでにご存知の方も多いと思うが、石山軟石の採掘跡を含む独特な景観を利用した公園である。



写真の「ネガティブマウンド」は、すり鉢状の石舞台として、イベントなどにも利用され、異空間に入り込んだような不思議な感覚に浸ることができる。

その他、水の広場や現代彫刻もあり、整備されているながらも四季の自然を味わえるのが魅力である。周辺には小さなレストランもあり、旧石山郵便局を利



用した「ぼすとかん」では、軟石を使った小物などが販売され、二階の「二シクルカフェ」ではコーヒーやランチも楽しめる。

アクセス…地下鉄南北線真駒内駅からじょうてつバス⑫で「石山中央」下車。徒歩約七分
(辰巳奈優美)

◇国道12号線を野幌公民館東側から北に向かうと、煉瓦敷きの遊歩道「野幌グリーンモール」が続く。沿道には野幌屯田兵入植当時の資料館等、開拓の歴史が保存されている。

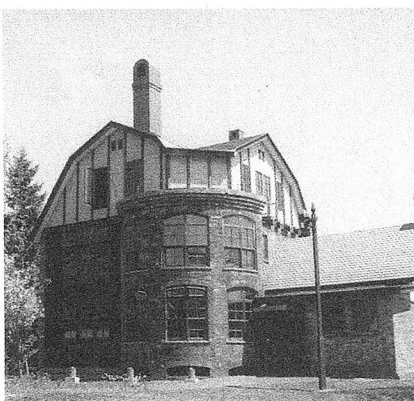
まず煉瓦造りの野幌公民館から。桜や胡桃の大きな間を縫って裏庭へ。山法師が大きなパラソル状に枝を広げ、満開の時は圧巻! その右手には噴水の広場があり夏にはお勧めの場所。

学園通を渡ると、左手に開村記念碑が建つ。その奥、江別第二中学校には練兵場跡の史跡標柱が確認される。右手に向かう

と江別ガラス工芸館が見えてくる。この建物は北海道煉瓦合資会社社長宅として昭和二十年に建設された煉瓦造りの洋館。現在はガラス工芸家の柿崎均氏のアトリエ。建物や制作の様子も見学出来、予約をすれば作品作りの体験も出来る。

二番通を渡ると、左手には江別市屯田資料館。明治十七年に建てられた野幌屯田兵第二中隊本部で、建物自体が北海道有形文化財に指定されている。そばには明治二十二年に錦山神社として建立され、昭和四十八年に改名された錦山天満宮がある。更に北へ三番通を越え、屯田兵として入植した湯川家寄贈の広大な湯川公園が終点となる。

(西田美木子)



◇札幌の地下鉄東西線に乗り、円山公園駅で下車し、裏参道を円山へ向かって歩き、麓の坂道を十五分ほど登ると円山動物園があります。

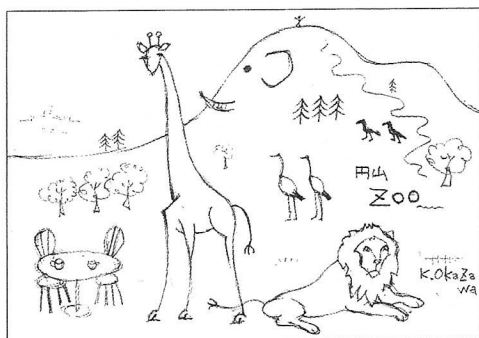
入園料は八百円(七十歳以上は無料)。案内板で見たい動物を決めてから入園することをお勧めします。動物好きでなくても癒されます。※休園日があります。また、現在コロナの影響で入園には予約が必要ですので必ずご確認ください。(円山タミナルからバスも出ています。)

裏参道から動物園にかけての円山の麓や北海道神宮の境内には杉の木があります。杉林をゆつくりと歩くことをお勧めします。小鳥やリスが見られるかも知れません。ただし鴉もいるので気を付けてください。

足に少し自信があれば円山登山もお勧めです。登山口は裏参道から動物園への途中にあります。標高は二百二十五メートル。頂上からの眺めは抜群です。所要時間は往復で一時間半程度。小さな山ですが油断せず、運動靴や軽登山靴が良いでしょう。(途中にトイレが無いので済ま

せてから登りましょう。)

そして、帰りには円山公園駅の近くの喫茶などで一休みして、一句作るのもよいでしょう。休業日などを事前に把握しておきましょう。(岡澤邦彦 記)



受贈俳誌より

「道」(八月号)

整然と樺戸郡の代田かな 田湯 岬
茶所は長寿の里や風薫る 建部三由紀
小康の夫が筆持つ花の昼 庭田 一美
絵馬跳ねて杜の芽吹きを促せり 齋藤 静弘
息吐いて無念無想の座禅草 金田 一波

「アカシヤ」(八月号)

麦秋や窓開け走る一両車 鈴木 喬二
女湯におかめの暖簾桜東風 高木 則子
投げ釣りの方向にあり夏の雲 松岡 久直
ペディキュアは青十七歳の藍浴衣 金行 康子
残雪や十勝連峰肩組んで 小坂ひとし

「雲の木」(八月号)

文月や白のふえゆく濯ぎもの 水野 幸子
コスモスや妻の歩行器手を添へて 池田 北陽
溶岩肌の赤し木苺ふふみつ 加賀谷良子
羊蹄山の高く見ゆる日暮の花 山内 元子
作業着はシャツ一枚の昆布干し 松川 悠乃

「壺」(八月号)

一茎に連ぬるハート華鬘草 佐々木秋泉
お結びをひらけば初音樹海より 磯江 波響
囀りや猫は籠中にある自粛 小林 大雪
ジャスミンの香に親みてテレワーク 菱沼 栄子
切り株のひとつ新し風薫る 寺島 玲子

「葦牙」(八月号)

清水汲む水筒ひとつ受けとりぬ 十河 宣洋
つちふるや男マネキン横抱きに 山本てる子
露天湯へ杣の古径花胡桃 齊藤ふじお
靴紐に一息入れし登山道 田中源之助
空知野はどの道からも夏に入る 小松 光子

「雪嶺」(七・八・九月号)

青虫は水に浮かせよ春玉菜 山本 圭子
先生の声も混じりて雪解道 小川原紀美雄
朧夜やすぐに遅るる鳩時計 藤田 保子
銀の残れる山や花こぶし 藤嶋 正
春深し金色堂の杉木立 中田 琢志

「樹氷」(盛夏号)

ロダン像考へあぐね夏は来ぬ 秋葉 礼子
ひとひらの解きて薔薇の今日ありぬ 小島スズエ
水仙を手折りて暗し庭の隅 北見 静香
とびとびの灯も早春のサロベツ野 田中 徹男
新らしき墓石に止まる赤とんぼ 中村 洋子

露 浄 土 遊 ぶ 楸 邨 耕 一 郎
 鯛 雲 少 年 ク ラ ブ 買 ひ し 街
 魚 細 る 海 へ ど ん ど の 火 の 猛 る
 北 こ ぶ し 藩 土 の 墓 に を み な の 名
 夕 桜 砂 場 に ひ と り 遊 び か な
 ム ツ ク リ の 音 に 目 覚 む る 大 夏 野
 風 鈴 屋 風 の 輪 唱 運 び 行 く
 逝 く ま で の 日 々 を 思 ひ ぬ 春 の 雨
 新 走 り 恩 を 返 さ ぬ ま ま に 老 ゆ
 街 並 み の 途 切 れ た ん ぽ ぽ 冬 を 咲 く



『露浄土』より

略 歴

昭和14年 八雲町に生れ、少年時代を増毛町に
 過す。後に札幌市に転居、現在に至
 る。
 同 60年 『梓』入会、永田耕一郎に師事
 同人、編集長。『梓』賞受賞
 平成9年 第一句集『海鳴り』上梓
 同 10年 『梓』終刊
 『百鳥』入会、大串章に師事
 同 11年 北海道俳句協会常任委員、平成26年
 退任
 同 12年 『百鳥』同人
 同 18年 第二句集『海光』上梓
 同 30年 『百鳥』退会
 令和3年 第三句集『露浄土』上梓
 現在 無所属
 俳人協会会員 同北海道支部理事
 秩父別町交竜吟社選者

第24回 北海道俳人協会賞

句集『露浄土』

生出 紅南氏

受賞のことば

生出 紅南

ありがとうございます。
 北海道俳人協会賞を頂いたこ
 とに深く感謝致します。

師永田耕一郎は、平成十八年
 八月二十日、八十六才の生涯を
 終えました。同年十月二十日、
 句碑のある澄川紅桜公園で、追
 悼句会を行いました。その折に
 作ったのが、
 ・露浄土遊ぶ楸邨耕一郎
 この句から句集名『露浄土』
 と致しました。

耕一郎の句歴には終戦後間も
 無く『寒雷』に入会、楸邨の薫
 陶を受けていたことが記されて
 います。昭和二十八年、東京へ
 行ったときの耕一郎の句。

・初夏の卓燈うつせんとして楸邨坐す
 第一句集『氷紋』

当時のことを「楸邨先生をは
 じめてお訪ねした。先生は机の
 前に坐っていた。私はおそるお
 そる頭をあげて先生を仰いだ。
 先生はやさしい声をかけてくれ
 た」と語っておられました。

平成五年楸邨逝去。耕一郎は
 悼句として、

・楸邨の歩いて行きぬ天の川
 第六句集『いのち』
 と作っています。心酔していた
 生涯の師楸邨への思いが見えま
 す。

師耕一郎の主宰誌『梓』の
 「参の会」。参加者の句を俎上
 に批評し合う会でした。耕一郎
 の句も厳しく批評されたことも
 数多。

勉強になったと言うより愉し
 い会でした。

平成十年『梓』の終刊。虚し
 さの一語に尽きます。

指を折りながら作った句。

・スキー乗る山から見えた校舎かな
 小学校五・六年の時、故松田
 弟花郎先生（『青女』同人）が
 俳句を教えてくださいました。あれ
 から七十年は過ぎました。中断
 を繰り返しながら続けて来た句
 作り。

俳句一生とは言いませんが、
 五・七・五の俳句、これからも
 愉しみたいと思います。



第24回 北海道俳人協会賞
(R.2.4.1~R.3.3.31)

		飯川久子	磯江波響	岡澤邦彦	高松暮秋	滝谷泰星	得点
1	薦のコンパス 小橋厚子	3位	3位		2位	1位	7点
2	日広瀬新むつき						
3	麦内青山実知世			2位			2点
4	花遠山宮木子	2位	2位	3位	3位	3位	7点
5	露生浄土南	1位	1位	1位	1位	2位	14点

注) 得点は1位3点、2位2点、3位1点としての合計。

選考委員評 (五十音順)

飯川 久子 評

先の協会賞選考の時にも書いたが、どの句集も自分を振り返り己の足跡を慈しむ佳き句集であった。中でも、キャリアと熟練、元「梓」の編集長等であったなど、数々の足跡よりにじみ出た生出紅南氏の『露浄土』に心ひかれた作品が多く、一位に推した。二位に推した『花水

木』は、日常の身近な対象をさりげなくとらえる力量が抜群で、抒情も感じさせられた。

・炎天を風のごとくに検針員・雪解急郵便ボストの背がのびて三位に推した『薦のコンパス』は、北国らしい大きな景を詠み、映像が蘇った。空知地区に生まれ、学生時代を除き、この地区に在住。空知平野を愛し知りつくしている佳句が多く、家族詠にも心ひかれた。

『日々新し』『麦青む』もそれぞれ日常詠、家族詠など人間模様が感じられた。

磯江 波響 評

『薦のコンパス』 中学校の英語教師として全うされた人生が滲み出ている。同じ教職の道歩んだものとして共感句が多い。『日々新し』 教員生活定年退職後の第一句集。句歴二十年。まだまだ若く旅行吟も多い。これからが楽しみである。

『麦青む』 平成十年から二十一年間の三百句所収。何気ない日常生活がこの人の手を潜ると全て俳句になる。生の応援歌。

『花水木』 『火床』に次ぐ第二句集。俳句を抛りどころとして三十年。透徹した自然詠。優しい人間愛。心温まる句集。

『露浄土』 『海鳴り』『海光』に次ぐ第三句集。七百二句所収。句歴も十分で、多様な自然詠。穏やかな老境を詠い上げ、しかも新鮮味を失っていない。

岡澤 邦彦 評

今回も例年同様にとっても充実した内容の句集が揃い、甲乙の付け難い選考となりました。

『露浄土』は句作への作者の確かな姿勢を感じることが出来ます。「生きること」への深い洞察が滲み出て、格調の高い句集となっています。

『麦青む』は旅先や日常での美しさを的確に捉えて温かさを感じさせ、自然への細やかな感覚が見事に結実しています。

『花水木』は作者の感性の豊かさがよく表れ、その場の空気が伝わってくる句がとても多いように感じられます。

その他の句集も日頃の研鑽の跡が十分に表れ、多くの句に心を打たれました。十七音の中に作者の足跡がしっかりと刻み込まれ、それぞれに珠玉の光を放っていました。

高松 暮秋 評

『露浄土』 有季定型の基本に基づき、多

くの作品は北海道の大地に根差した土着性がある。また、幅広い素材の中で焦点を絞り、季語との大胆な取り合わせによって作品に余韻や余情が深く、心が揺さぶられた。以下、印象句。

- ・首塚の風に紛れて夏の蝶
- ・一本の枯木となつて空を突く
- ・縄文のたつきの炉端水の秋
- ・日本海雪の捨て場となりけり

滝谷 泰星 評

『薦のコンパス』

日常のあれこれを幅広く句材とし、人間の機微をとらえ、また風土への思いを平明に詠んでいて、多くの句に共感した。新仮名であることには深入りしなかった。

『露浄土』

良き師に恵まれ長きにわたり培ってきた作者だけに、その句の厚みと手堅さには強かなものを感じた。

ただ、一集七〇二句は、緊張をもつて読み切るには、いかにも多いと感じた。

『花水木』

景の大きな句、日ごろの小さな発見から生まれた句などに、その老練さを感じ感銘した。なべて、切れの鮮やかさにも感じ入るものがあつた。

俳人協会北海道支部 第十三回 俳句大会

- 一位(14) 学校は島の真ん中小鳥来る 岡崎 江西 淑江
 二位(12) 風葬の立坑櫓冬ざる 札 幌 下内 蛭山
 二位(12) 孫よりも本気大きな捕虫網 札 幌 藤井つな子
 三位(11) ふるさとへ届かぬ鉄路赤蜻蛉 札 幌 小林 道彦
 三位(11) 煮こごりや潮風痛き漁師町 北広島 高田 小幸
 三位(11) バス停に傘ほどの屋根小鳥来る 岡崎 水野 幸子
 三位(11) 齢にも坂といふもの新茶汲む 札 幌 今井 嘉子
 四位(9) 雪嶺を枕屏風に町ねむる 札 幌 辰巳奈優美
 四位(9) 尻取りのきりんで終はる日向ぼこ 札 幌 小杉 好恵
 五位(8) 出刃庖丁噛みて離さぬ栗南瓜 苦小牧 櫻井 伸良
 五位(8) 耕して耕して友逝きにけり 札 幌 生出 紅南
 五位(8) イヤリング外して漁婦の頬被り 帯広 高松 暮秋
 六位(7) 聞かずとも流すラジオや松手入 名古屋 小川 博市
 六位(7) 溪紅葉石から石へ水奔る 函館 斉藤ふじお
 六位(7) たたまれし盆提灯のうすきこと 霧島 田之上 征春
 六位(7) 晩学に減らす消ゴム秋灯 伊達 菅原 洋子
 六位(7) 波音の波音を追ふ無月かな 小樽 加藤 廣子
 六位(7) 縄文の土器の焦げ跡文化の日 函館 高山 京子
 六位(7) 少年の恋の始まる雪礫 札 幌 中西 史子
 六位(7) 投了の棋士の正座や夏椿 札 幌 石田 千穂
 六位(7) 除雪して仏間明るくなりけり 札 幌 すすき 春雪

※カッコ内は得点です。

※作品は同点の場合、特選句を優先とし投句の到着順としました。

選者特選句

- 石井こう子 特選
 ユーカラの文字なき民や丹生の花
 札 幌 宮本まつる
 生出 紅南 特選
 をさなより木の実のめくみ貰ひけり
 苦小牧 浅野 数方
 大内 鉄幹 特選
 孫よりも本気大きな捕虫網
 札 幌 藤井つな子
 大澤 久子 特選
 海市立つ蝶と蝶が喋り出す
 札 幌 國中 吾風
 岡本 正敏 特選
 吊されて鮭渾身の面構へ
 札 幌 平川 靖子
 尾村 勝彦 特選
 風葬の立坑櫓冬ざる
 札 幌 下内 蛭山
 金田野歩女 特選
 煮こごりや潮風痛き漁師町
 北広島 高田 小幸
 金行 康子 特選
 雪嶺を枕屏風に町ねむる
 札 幌 辰巳奈優美
 狩野 和子 特選
 バス停に傘ほどの屋根小鳥来る
 岡崎 水野 幸子

- 河原 小寒 特選
 佐呂間湖の一創もなく結氷す
 北 見 花木 研二
 久保田哲子 特選
 裂帛のトランペットや年詰まる
 札 幌 及川 澄
 熊谷佳久子 特選
 母の忌と言ふも一人や菊を焚き
 鹿 追 林 樹里
 清水 芳堂 特選
 母逝きて小さくなりし父の秋
 音 更 荒川 美桜
 高橋 千草 特選
 初氷あぶく一つを閉ぢ込めて
 北 見 金田野歩女
 竹内 直治 特選
 ふるさとへ届かぬ鉄路赤蜻蛉
 札 幌 小林 道彦
 辰巳奈優美 特選
 ささやかな身内の歴史露月夜
 小樽 橋本 末子
 田湯 岬 特選
 風葬の立坑櫓冬ざる
 札 幌 下内 蛭山
 大郷 石秋 特選
 菜を洗うアイヌ名の川水澄めり
 音 更 石王 邦子
 土門きくゑ 特選
 サロベツの花野に据うる利尻富士
 苦小牧 浅野 数方

俳人協会創立六十周年記念北海道俳句大会 併催 北海道支部第十四回俳句大会選者名簿

□本部選者(五十音順)

權 未知子 (群青・銀化)
角 谷 昌 子 (未 來 図 耕 為)
臺 目 良 雨 (春 為)
福 永 法 弘 (天 為)

□道内選者(三十四名)

飯川 久子 (鴻・花桐)	石井 こう子 (鶴)
生出 紅南	大内 鉄幹 (万象・たかな)
岡澤 邦彦 (アカシヤ)	尾村 勝彦 (葦 牙)
金田 野歩女 (白魚火)	金行 康子 (アカシヤ)
狩野 和子 (雲の木・郭公)	河原 小寒 (壺)
久保田 哲子 (百 鳥)	熊谷 佳久子 (天 為)
清水 芳堂 (道)	高橋 千草 (壺)
田湯 岬 (道)	辰巳 奈優美 (若 葉)
大郷 石秋 (秋 麗)	土門 きくゑ (若 葉)
中森 千尋 (道)	中村 英史 (方 円)
中屋 吟月 (柏 林)	名取 光恵 (アカシヤ)
成田 智世子	西村 榮一 (壺)
橋本 末子 (鶴)	橋本 和男 (天為・アカシヤ)
畠 典子 (葦 牙)	花本 研二 (葦牙・白魚火)
林 佑子 (河)	平間 純一 (白魚火)
*森 淳子 (白魚火)	山形 定子 (若 葉)
山下 敦 (壺)	陽美 保子 (泉)

*印は新任

(前ページつづき)

中村 英史 特選
かたちなきものにあらがひ去年今年
中森 千尋 特選
尻取りのきりんて終はる日向ほこ
中屋 吟月 特選
齢にも坂といふもの新茶汲む
名取 光恵 特選
学校は島の真ん中小鳥来る
成田智世子 特選
花明りかの世この世の友とゐて
西田美木子 特選
白靴やまだ踏み出せる一步あり
西村 榮一 特選
天狼やアンモナイトの眠る町
橋本 和男 特選
どこまでも続く雪原汽笛澄む
橋本 末子 特選
雪嶺を枕屏風に町ねむる
畠 典子 特選
直立不動百歳の文化の日
札幌 吉野 早苗

花本 研二 特選
ふるさとへ届かぬ鉄路赤蜻蛉
林 佑子 特選
耕して耕して友逝きにけり
平間 純一 特選
風葬の立坑櫓冬ざるる
山形 定子 特選
出刃包丁噛みて離さぬ栗南瓜
山下 敦 特選
読みさしの遺句集膝に火恋し
陽 美保子 特選
神送り傘を開いて干しにけり
花本 研二 特選
札幌 小林 道彦
札幌 生出 紅南
下内 蛭山
奥野津矢子

新会員紹介

① 簡単な俳句歴
② 自選の一句

伊藤久美子 (いとうくみこ) (いには) 苦小牧
① 平成二十三年「いには」入会
② 葛湯吹く足るを知りたる一日かな

◆本年度の俳句大会は、「俳人協会創立六十周年記念北海道俳句大会 併催 北海道支部第十四回俳句大会」として行うことになりました。道内選者に加えて、本部の四氏が選者に決定しておりますので、ここにご紹介申し上げます。この機会に、奮ってご応募下さい。

本部選者紹介

權 未知子

余市郡余市町生まれ。現在、「群青」共同代表。「貴族」にて中新田俳句大賞、『カムイ』にて俳人協会賞、小野市詩歌文学賞受賞。『季語の底力』にて俳人協会評論新人賞受賞。近著に『七音の旅』（北海道新聞社）がある。

自選十句

・春は曙そろそろ帰つてくれないか
・佐渡ヶ島ほどに布団を離しけり
・南風吹くカレーライスに海と陸
・さまよへる湖に似てビヤホール
・しばれると皆言ひ交す夜空かな
・地吹雪や蝦夷はからくれなゐの島
・海流のぶつかる匂ひ帰り花
・挨拶は雪を払つてからのこと
・一瞬にしてみな遺品雲の峰
・働いてこの夕焼を賜りぬ

角谷 昌子

東京生まれ。鍵和田柚子に師事。「磁石」同人。句集『源流』『地下水脈』他、評論『山口誓子の一〇〇句を読む』『俳句の水脈』を求めて一平成に逝つた俳人たち（俳人協会評論賞受賞）。俳人協会理事、国際俳句交流協会理事、日本現代詩歌文学館評議員、日本文藝家協会会員。朝日新聞俳句時評連載中。

自選十句

・日月に蝕あり罇の鏡餅
・海市にはあまたの禁書あるといふ
・うすらひに陰画のみやこあらはるる
・につぼんは弓張るかたち鶴引けり
・鯉職揚げて母音の響く国
・かきつばた日本語は舌なまける
・馬の胴叩けば夏野鎮まれり
・母問へばすぐに扉の開く良夜かな
・霧を出て馬の容にかへりけり
・丹頂や鋼の脚を雪に刺し

墓目 良雨

埼玉生まれ。「春耕」主宰、「東京ふうが」主宰。一九八二年「風」「春耕」入会。一九八八年春耕賞。句集『駿河台』『神楽坂』『菊坂だより』『九曲』。『平成食の歳時記』、俳画集『天然の風』。

「塔の会」会員、「戦後俳人研究会」会員。俳人協会監事。

自選十句

・寅さんの映画に行けり生身魂
・芋環や木曽路は水の音の中
・そら豆のつるんと飛んで五月場所
・東京をびしょ濡れにして桜桃忌
・そもそもは並んで卯波見しことに
・古書街に立ち飲みをして年忘れ
・煮凝や父に親しむ父の死後
・暗く寒く魚喰ふ能登の饗のこと
・ここまでが看取りここから我が夜長
・妻泣く夏至のお茶の水橋の上

福永 法弘

昭和三十年、山口県生まれ。松本澄江、有馬朗人に師事。

句集『悲引』『遊行』『福』、エッセイ集『俳句らぶ』他、共著『大歳時記』『女性俳句の世界』や小説など著書多数。小説『白頭山から来た手紙』で第三回四谷

ラウンド文学賞受賞。

「天為」選者・同人会長、「石童庵」庵主、俳人協会理事、俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会理事。

札幌に三回、計七年在住。その間、当時の北海道の二百十二市町村をすべて回り俳句とエッセイを執筆、『北海道212俳句の旅』（北海道新聞社）として刊行し、同書の一章は北海道の中学校の教材にも採用された。

自選十句（いずれも北海道での作）

・石狩に踏む雪泥や啄木忌
・アイヌの子にアイヌの大地路の臺
・石狩のここも伊達町春田打つ
・春北風あるだけの板立て並べ
・鳴き砂を鳴かさず踏み花風露
・持つてけと一束くれし昆布漁師
・利尻より礼文は優し敦盛草
・蝦夷富士の日暮れ紫馬鈴薯の花
・沈む日は追はぬと決めて向日葵は
・白里忌や一志立つるに遅からず



第14回俳句大会 作品の募集

- 募集句 雑詠 (自作未発表作品であること、
前書き・ルビは不可)
2句1組 (何組でも可)
本号同封の所定用紙をご使用ください。
(用紙のコピー可・A4版原稿用紙可)
- 投句料 1組につき千円
(小為替又は現金書留で作品と同封のこと)
- 送り先 〒069-0804
江別市野幌美幸町12-4
西田美木子 方
俳人協会北海道支部第14回俳句大会係宛
- 投句受付 令和3年10月1日(金) から
- 投句締切 令和3年12月25日(土) 当日消印有効
- 選者 俳人協会北海道支部会員各氏に依頼
- 入選発表 「北こぶし」第97号紙上(令和4年3月発行)
- 顕彰 上位入選句ならびに選者特選句
令和4年5月15日(日)の俳人協会北海道支部第38回定時総会席上にて
- その他 明らかな誤字以外は応募原稿のとおりに
印刷します。又、類句・二重投句につ
ては入賞を取り消すことがあります。
(出句後の訂正はお断りします。)
尚、応募者全員に作品集を差し上げます。

お見舞い申し上げます

◇今夏の全国的な豪雨により被災
されました方々に、心からお見舞
い申し上げます。

◇出版物送付のお願い

会員におかれまして、句集など
発刊されましたら、一冊を事務局
に御寄贈下さい。

北海道俳人協会賞応募作品は別
途選考委員にも各一冊お送り下さ
い。

会員の皆様へ

会員の皆様におかれまして、入
退会また、その他のお問合せの際は、
支部事務局 辰巳奈優美
011(591)4609まで
ご連絡下さいますよう、何卒よろ
しくお願い申し上げます。

— お願い —

会報「北こぶし」は通常メール
便にてお届けしておりますので、
住所変更の際は、郵便局への届出
と別に、支部事務局へのご連絡を
お忘れなくお願い致します。

事務局&編集室



◆連日の猛暑の中、鳴き始めたの
は、何故か秋の蟬。ツクツクホウ
シツクツクホウシ、と例年であれ
ば初秋の風が吹き始める頃に、裏
庭の桜桃の幹で、涼しげな声で樂
しませてくれるのだが。今年は、
アブラゼミに先んじて、ものすご
い数が一斉に鳴き、朝から暑苦し
いくらいである。拙宅の近所だけ
のことかも知れないが、やはり異
常気象が要因であるのか。季節の
順を飛ばされてしまったような氣
がしてならない。それにしても、
アブラゼミは、まだ地中で眠って
いるのだろうか? (辰巳奈優美)

◆帰り花・狂い咲きと言えば冬の
季語ですが、今年の北海道の猛
暑・少雨の影響が今、我家の庭で
は藤が蔓を伸ばした先に花をつけ
(それも十房以上) 近所では紫木
蓮が数輪ですが、綺麗な花を咲か
せています。

少雨の北海道に比べ、九州や本
州各地で停滞前線や線状降水帯・
台風による大雨が続き、土石流や
河川氾濫等の被害が続出していま
す。亡くなられた方も毎年の様に
多数いらつしやつて痛ましい限り
です。

あの暑かった夏もオリンピック
の閉幕と時を同じくする様に急に

秋風が吹き始め、北国に住む者と
しては、もう雪の心配をしている
くらいです。
でも今はやはりコロナウィルス
の収束を願うのが一番です。
(西田美木子)

編集後記

▽新型コロナウイルスの影響で、
本年度も定時総会は書面表決と
なり、秋の吟行会、新春句会・
新年交礼会は中止となりました。
一刻も早く日常が戻ることを願
うばかりです。

▽第十四回俳句大会の投句用紙
を本号に封入致します。今回は
本部創立六十周年記念北海道大
会と併称し、道内選者に加え本
部より四名の選者に選を頂くこ
とになりました。どうぞ奮って
ご応募ください。会員外の方の
投句も歓迎致します。また、
「会員の一句(既発表句可)」
を記入して頂く葉書も封入しま
した。ご返送の程よろしくお願
い致します。

▽北こぶしの発行も昨年度に引
き続きテレワーク作業となりま
した。コロナの感染拡大は収ま
る気配がなく、加えて猛暑、豪
雨と天災続きの大変な夏でし
た。これからは日々寒くなるば
かりですが、どうぞ皆様くれぐ
れもご自愛ください。
(陽)